

## ティーチング・ステートメント

所属 北科大 薬学部

名前 武田香陽子

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

薬学部薬学教育分野に所属し、1～6年生のクラス担任および卒研担当をしている。また、科目としては、1年次の薬学生入門、2年次介護福祉体験実習、3年臨床薬学実習Ⅰ、4年次薬と疾病(呼吸器疾患)、臨床薬学実習ⅣおよびⅤ、総合演習Ⅰ(実務)、5年エデュケーショナルスキル、6年次総合演習Ⅱ(実務)まで関わり、卒後の生涯学習研修や指導薬剤師養成までの教育に関わっている。研究活動は薬学教育分野教員として教育に関する研究活動を実施している。

### 【理念】

専門職として必要な知識を身に着け、社会に求められる薬剤師を育成すること、さらに、社会人、医療人として信頼される薬剤師に育てることを理念と考えている。医療人である薬剤師は国家試験を合格すれば資格を与えられ、現場で専門職として働く。例え1年目であったとしても、患者さんから見れば「薬剤師」であり、自身の身体の問題を相談する相手となる。そのために必要な最低限のスキルを様々な方法を用いて学部教育の中で教育したい。

### 【方針・方法】

自身の理念を実現するために以下の方針・方法を取り入れている。

1) 専門職として必要な知識を身に着け、社会に求められる薬剤師を育成する。

基本的には学生が知識を理解し、活用できる方略を考える必要がある。この方針のためには、授業構成の構築が重要であり、下記方法を実施している。

①PBLとジグソー法を組み合わせた授業を実施。

②遠隔服薬指導のための授業等、授業をZoomとMoodleのフォーラム機能を合わせて実施。

③また、理解を深めるために動画を利用。

④オムニバス授業実施の場合には教員間での授業構成のディスカッションは次年度授業前に必ず実施。

⑤自ら自己研鑽ができる学生育成のため、新1年、4年、5年、6年2024年度からポートフォリオを導入する。

授業構成は同じでも、テーマや方法を毎年少しずつ変えながら実施している。また、授業内においても積極的に学生に発言の機会を設け、学生主体で実施することを常に意識している。

## 2) 社会人、医療人として信頼される薬剤師に育てること

医療人である薬剤師は本来であれば話さないようなプライベートな内容まで時には関わることがある。患者さんは薬剤師を選んで指導を受けることは難しく、時には話したくない内容まで治療のために話さなくてはならない。そのため、薬剤師はプロフェッショナルとして、どんな患者さんにもある程度信頼感を持ってもらえるような人間性が必要である。この方針のためには、日常における教員との関わりが大きなステップであると考えており、下記方法を実施している。

①クラス担任として、卒研担当教員として、指導薬剤師養成 WS のタスクフォースとして、様々な立場でしっかりと学習者に向き合うために、メールおよび面談等での細目な対応および相談等も受け付けることで信頼関係を構築する。

②自身の教育者としての考え等を日常、授業の中で伝えること、自己省察の機会を設けることで少しずつ医療人として、プロフェッショナルとしての意識が芽生えたと考える。

### 【評価・成果】

自身の実施している方法の評価は授業後のアンケートを実施し、学生の理解度の変化や授業構成の評価をしてもらう。理解度の変化等ではほとんどの学生の理解度は上昇したと記載されている。また、実際に養成した指導薬剤師は学生の実務実習時に顔を合わせる機会もあり、ためになったとのコメントをいただいている。

- ・スライドが多いことは今年度指摘された。

### 【目標】

○短期目標:常に自身の授業に対する改善を次年度までに検討し、次年度反映できるようにしている。

○長期目標:学生が作成したポートフォリオの評価を吟味しつつ、自身の理念に沿った学生が卒業できているか、自身の教育のふり返しを行う。そのために、必要な情報は常に学会等への参加によって収集し、海外等の教育方法や評価方法も含めて検討する。

TS 更新の意義:以前の自身の理念・方針をふり返し、現状に即した TS に更新する。それによる自身のブラッシュアップをする。